



2021年6月28日

各 位

ダイドファーマ株式会社

ランバート・イートン筋無力症候群にかかる 医療用医薬品に関するライセンス契約締結のお知らせ

ダイドファーマ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：稲岡 靖規、以下「ダイドファーマ」という。）は、CATALYST PHARMACEUTICALS, INC（以下「カタリスト社」という。）との間で、ランバート・イートン筋無力症候群（以下「LEMS」という。）への効果が期待される医療用医薬品（一般名：amifampridine）に関する日本国内におけるライセンス契約を本日締結しましたので、お知らせいたします。

Amifampridine は、すでに欧米において LEMS を適応症として承認されている医療用医薬品で、カタリスト社が米国で Firdapse® という商品名で販売しています。

ダイドファーマは、本契約により、カタリスト社が有する Amifampridine の日本国内での共同独占の開発・製造販売実施権および独占的商品化実施権の許諾を取得し、日本における同薬剤の開発を行ってまいります。

本ライセンス契約締結にあたり、カタリスト社の Patrick J. McEnany 会長兼 CEO は次のように述べています。

「ダイドファーマは経験豊富なチームと希少疾病への熱意を有しており、弊社、ならびに LEMS 治療薬である弊社の Firdapse®（一般名：amifampridine）の戦略的開発・販売パートナーとして魅力的です。日本では LEMS の治療法が限られているため、ダイドファーマと協力して患者様とその家族に新たな治療法を提供し、このアンメット・メディカル・ニーズに応えられることを楽しみにしています。」

また、ダイドファーマ代表取締役社長 稲岡 靖規は次のように述べています。

「このたび Catalyst 社が米国で販売している Firdapse® のライセンスを取得することは大変喜ばしく、今後、LEMS に対しての製造販売承認取得に向けて開発を進め、治療法がなく苦しむ患者様とご家族へ一刻も早く新たな治療薬をお届けしたいと願っています。」

(ご参考)

ランバート・イートン筋無力症候群について

自己免疫性・神経筋接合部疾患で、神経終末からのアセチルコリン放出量減少により近位筋の筋力低下、自律神経症状などの症状を呈する。悪性腫瘍に合併、あるいは腫瘍の発症に先行する傍腫瘍性神経症候群の1つ。

Catalyst Pharmaceuticals について

カタリスト社は米国フロリダ州 Coral Gables に本社を置くバイオ製薬企業であり、神経筋及び神経系の希少疾患に対する画期的な治療法の開発と商業化に焦点を当てている。カタリスト社は、2018年11月にFDA（アメリカ食品医薬品局）から成人のLEMS治療薬として amifampridine の承認を取得した。

問合せ先 : ダイドグループホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部
〒530-0005 大阪市北区中之島 2-2-7 中之島セントラルタワー18F
TEL : 06-7166-0077
FAX : 06-6222-2623